

## 研究内容の説明文

献血者説明用課題名※ (括弧内は公募申請課題名)	ヘパトカインを標的とした診断薬・治療薬の開発 (同上)
研究期間	2017年度～2028年度
研究機関名	金沢大学大学院医学系研究科 内分泌・代謝内科学分野
研究責任者職氏名	篁 俊成

研究の説明
<p>1 研究の目的・意義・予測される研究の成果等</p> <p>血液中には様々なタンパク質が含まれていますが、肝臓で作られるセレノプロテインP（以下、SeP と略します）もその1つです。私たちはSePのように肝臓から血中に分泌されるタンパク質の一群をヘパトカインと命名しました。私たちは過栄養な状態になるとSePの血中濃度が高くなり、それが血糖降下ホルモンであるインスリンの効きを肝臓や筋肉において悪くすることを発見しました。つまり、過剰なSePは2型糖尿病発症の1つの因子となるため、SePの血中濃度を測定することは糖尿病の診断に有用であるかもしれません。また、血中の過剰なSePの働きを抑えるような新規な糖尿病治療薬の開発にも期待が持てます。</p> <p>そこで、私たちはSePを標的とした診断薬・治療薬の開発を目指してさらに研究を進めていますが、その研究には単離・精製されたSePが不可欠です。多くのタンパク質は、現在のバイオテクノロジーにより人工的に合成することも可能ですが（このように合成されたタンパク質を組換えタンパク質と言います）、肝臓が有する極めて特殊な仕組みにより作られるSePの場合、最先端のテクノロジーを用いてもその組換えタンパク質を作ることが不可能であり、精製SePを得るには血中に存在するSePを単離・精製する以外にありません。私たちは、その精製方法もすでに確立していますので、いただいた血液はSePを単離・精製するために用います。</p>
<p>2 使用する献血血液等の種類・情報の項目</p> <p>献血血液等の種類：血漿（規格外） 献血血液等の情報：なし</p>
<p>3 献血血液等を使用する共同研究機関及びその研究責任者氏名</p> <p>共同研究機関はありません。</p>
<p>4 研究方法《献血血液等の具体的な使用目的・使用方法含む》</p> <p>いただいた献血血液に含まれるSePをカラムクロマトグラフィーという方法で単離・精製します。精製したSePは培養細胞やマウスに投与したり、生化学・分子生物学的な分析・解析を行ったりするために用います。</p>
<p>5 献血血液等の使用への同意の撤回について</p> <p>研究に使用される前で、個人の特定ができる状態であれば同意の撤回が出来ます。</p>

6 上記5を受け付ける方法

「献血の同意説明書」の添付資料の記載にしたがって連絡をお願いします。

受付番号

29J0030

本研究に関する問い合わせ先

所属	金沢大学大学院医学系研究科 内分泌・代謝内科学分野
担当者	箕 俊成
電話	076-265-2711
Mail	ttakamura@med.kanazawa-u.ac.jp

本書は日本赤十字社ホームページで公開され、必要に応じ献血者への説明資料として使用されます。

0000-00